

東北大学・高知大学・ウィットウォーターズランド大学の学生交流を実施

ICDP-DSeis/PROTEA 計画と日本－南アフリカ岩盤工学技術コンソーシアムによる日本と南アフリカの学生交流が、JICE「アフリカユースプログラム」に採択されました。9－10月に、横山樂百さん（本センター4年生）と濱垣貴也さん（高知大学総合人間自然科学研究科修士2年）が南アフリカに派遣され、ICDP-DSeis/PROTEA 計画の掘削サイト見学や国立コア倉庫での試料採取などを行い、ウィットウォーターズランド大学で開催されたセミナーで成果報告を行いました。11月には、岩盤工学技術に関する共同研究のため、ウィットウォーターズランド大学博士課程学生の Marcus Nyiko Mkhomazi さんと Masungulo Shibambo さんを本センターに招へいします。



ウィットウォーターズランド大学訪問時に開催されたセミナーの参加者



**Japan-Africa
Youth Program**

アフリカユースプログラム（英語名称：Japan-Africa Youth Program）は2025年8月に開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD9）で採択された「横浜宣言」に基づき実施されるものです。日本とアフリカの次世代を担う

若者たちが、対等なパートナーとして未来を「共創」するネットワークの構築を目指します。

本事業は日本政府（外務省）が推進する青少年交流事業であり、アフリカ連合委員会（AUC）からの委託に基づき、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）がその運営および実施管理を行っております。

本事業の4つのプログラムのうちの1つとして実施されるのが、日本やアフリカの大学・大学院・研究機関・民間企業を対象とした「長期招へい・派遣プログラム」です。本プログラムでは、JICEによって選定され、資金提供を受ける「連携パートナー」である日本の大学・大学院・民間企業・研究機関等が、2週間～3か月にわたる交流プログラムを企画・実施します。学生や研究者等の招へい・派遣、インターンシップの実施など中長期的な活動を通して、日アフリカの組織間の連携強化、若手人材の交流機会の創出および能力向上を目指します。